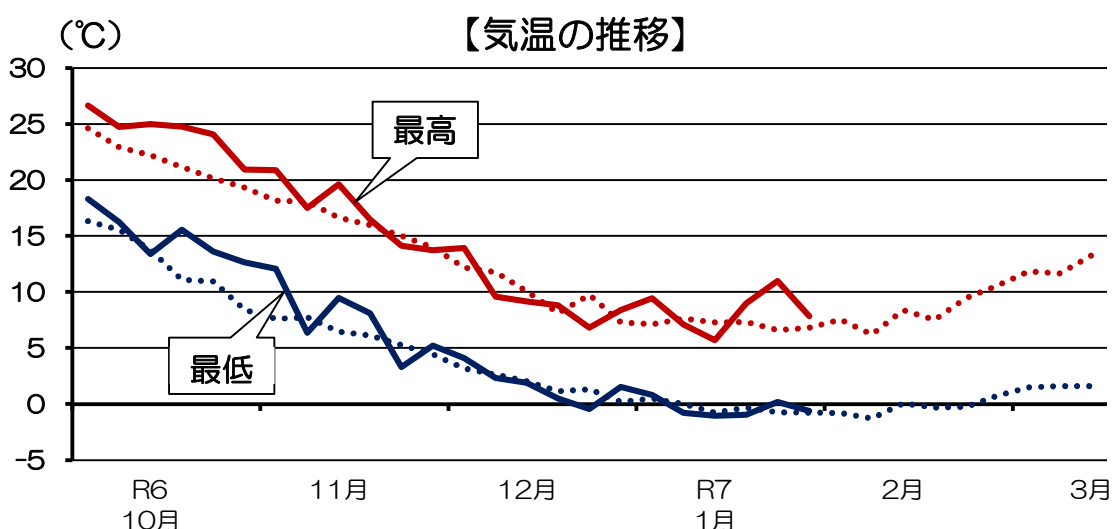


排水溝の点検・補修を！ 「びわほなみ」の穂肥施用時期を迎えます！

1. 気象および麦の生育状況

播種後の11月下旬～1月中旬の気温は平年並～やや低く推移したため、生育が停滞気味ではありますが、降雨・降雪が少なく、適期に播種されたほ場では、生育は概ね順調に進んでいます。遅播きほ場では播種後の気温がやや低く推移したため、生育は遅れています。



2. 排水対策【大麦・小麦】

麦は湿害に弱く、今の時期に湿害を受けると茎数が十分確保できず、収量・品質の低下を招きます。今作は湿害が出ているほ場が比較的少ないですが、排水口(尻水戸)周辺が浅くなり滞水していないか、溝が泥やワラでふさがっていないか点検し、**滞水している場合は溝さらえ等を行い、速やかに排水しましょう。**



排水溝がふさがって滞水。
溝さらえが必要。

穂肥をしっかりと効かせるために大切な作業となります。

3. 収量確保に向けた穂肥(小麦 びわほなみ)

「びわほなみ」の収量を高めるためには、排水対策により莖数を確保したうえで、穂肥をキッチリ施用し効かせることが重要です。

2月中下旬（主莖長が2cm 程度の時）に穂肥を施用しましょう。 施用量が少ないと減収したり、施用時期が遅れると穂数減少や遅れ穂の発生リスクが高まります。積雪がある場合は、融雪後、排水対策を実施したうえで速やかに施用しましょう。



↑ 主莖長 2cm

《穂肥施用例》

パターン①

【基肥】麦用セラコートR2500
または 国産化成肥料444
(5.6~7.5kgN/10a)
【穂肥】麦用セラコート R2500
40~50kg/10a(現物)
(合計 17.5~18kgN/10a)

パターン②

【基肥】 麦パンチ
(14kgN/10a)
【穂肥】麦用セラコート R2500
20kg/10a(現物)
(合計 19.0kgN/10a)

4. 雑草対策

収穫期にカラスノエンドウやタデ類等の広葉雑草が多いと、収穫の障害となったり、収穫物に混入して調製に支障をきたします。既にカラスノエンドウ等のマメ科雑草の幼植物が多発しているほ場もみられます。ほ場の雑草の生育をよく観察し、発生状況に応じて3月上旬（条間が隠れる前）には除草剤を使用して防除してください。

★「びわほなみ」の栽培にあたっての留意点

- ①生育不良とならないように排水対策を徹底し、湿害の発生を防ぐ。
- ②適期播種のほ場では、2月中旬の穂肥で収量の確保を図る。
- ③4月の止葉出葉期～穂揃い期の生育をよく観察し、葉色の低下等がみられた場合は、出穂7日前および出穂10日後の追肥（N単肥可）を施用し、収量低下の防止、たんばく含量の向上を図る。
- ④雑草防除は、播種期から生育期まで体系的な防除を実施する。